

## 清々しいひと時を過ごして!

## ●事務局体制・新旧交代

昨10日の夜は、浦和パインズホテルにおいて浦高同窓会事務局長を10年にわたり務めてくださった小畠正徳さん(高14回)の送別と、新たな事務局長・鯨井光夫さん(高19回)の歓迎の会でした。私も春日部地区浦高会の創設以来、ご指導をいただいた小畠さんにお礼を申し上げたく参加させていただきました。午後6時30分、川野幸夫同窓会会長をはじめ約60人の方々が集まり、会が始まりました。

最初に川野幸夫会長(高13回)のご挨拶です。

「小畠さんには、前任の川本会長から10年にわたり事務局長を務めていただき、心から感謝を申し上げます。この間、浦高との窓口、同窓生との窓口や仲介等、さまざまな仕事をしっかりと務めていただきました。昨夏、120周年に向けて事務局体制も若返りたいとのお話があり、先ず隗より始めよということでご自身からバトンタッチされたいとのことでした。強く慰留したのですが、ご本人の意思も固く交代を了承いたしました。そして、後任の鯨井さんにつきましては、真面目な方で民間経験を生かして活躍していただけるものと期待しております。私も3期目の2年をしっかりと務めてまいりますので、しっかりとした事務局長になっていただき、次の会長に引き継ぎたいと考えております。お二人のご健勝をご祈念し挨拶とさせていただきます。」

続いて関根郁夫浦和高校校長からのご挨拶です。

「小畠さんには、同窓会の事務局長としてさまざまな面から浦高生をバックアップしていただきましたことに感謝申し上げます。現在、アメリカのミシガン大学のサマーキャンプに3名の生徒達を送り出していますが、同窓会から一人30万円の支援をいただいております。浦高では、世界に通用する人材を育てたい、またこれまでも育ててきたという自負があります。たかが3人と思われるかも知れませんが、彼らのことを多くの生徒達が見ています。今年もイギリスのホイットギフト校からケンブリッジに2人目が進学し、さまざまな形で世界に通用する人材が育っていると感じています。今後も皆様のご協力をいただきながら閉塞感を打破できる人材育成に努めてまいります。私は“浦高生は三兎を追え”と常に言ってきましたが、勉強だけでなく、部活、学校行事に全力を傾注する姿勢こそが浦高生の強さであり、これからも浦高のレベルアップを図ってまいります。その中で、同窓会事務局のバックアップを大いに期待するところでございます。」

続いて3人の先輩達から送迎の言葉が・・

◆坂本和穂さん(高5回)「小畠さんご苦労様、鯨井さん同窓会の事務局として高校のバックアップをよろしく願います。小畠さんとは、約10年前に

パソコン教室で一緒に机を並べた仲ですが、今の同窓会通信も彼の並々ならぬ努力のおかげと感謝しております。事務局長が代われ同窓会通信のスタイルなども変わり、これからを楽しみにしています。」

◆内藤勝久さん(高10回)「100周年の“麗和”に若田光一さんと一緒に載り、私は森づくりの話をしましたが、その後、110周年記念事業で“浦高百年の森づくり”の提案をしたところ、当時の川本会長から“雄大な夢を実現しよう”との言葉をいただき事業がスタートしました。用地の選定や確保など、事務的な仕事をそつなく進めてくれたのが小畠さんでした。これからの10年は鯨井さんの力で繋いでいただきたい。浦高の精神として文武両道、それに環境を加えて、国家百年の人と森を造りたい。」

◆鳥井隆一郎さん(高11回)「平林寺に松平信綱の二人の家臣の墓があります。一つが川越藩の家老であった小畠助左衛門正盛と書いてあるのです。小畠さんに伺うと、ご先祖とのことでした。小畠さんの前へ前へというパワーはこれだと気付きました。この10年間は、川本・川野という二人の藩主に仕えてくれた、小畠さんはまさに家老だったのですね。」

さて、ここで主役のお二人からのご挨拶です。

◇小畠正徳さん「本日はありがとうございます。私が浦高に在籍した時代は昭和30年代半ばで高度経済成長の時代でした。諸先輩のご努力で強歩大会が復活し、さまざまな伝統行事が始まりました。そして100周年の時に息子が50回生として浦高に入りPTA会長を4年間務めさせていただきました。そして10年間の同窓会事務局と合計17年間にわたり浦高に通うことができました。この117年で32,000名を送り出した浦高、同窓会報の麗和も24,000名の皆さんにお届けしています。学校と同窓会の交流、生徒や同窓生たちの国内や海外での活躍などさまざまなことがあり、110周年の森づくりなどに関われたことは、私にとって充実と至福の10年間でした。全国の公立高校が4,000校、その中で男子校は18校しかありません。この伝統を守り抜き、さらに発展して欲しいと思います。」

◇鯨井光夫さん「本日は、歓送迎会を開催していただきありがとうございます。事務局のお手伝いをし、素晴らしい学校と同窓会なのだ改めて気付くとともに、私でいいのだろうかという心配があります。同窓会の多士済々の方々に接すると身の引き締まる思いがします。これからも、さまざまな分野で頑張っている皆様を支えていくとともに、仲良くできる同窓会を川野会長を補佐しながら目指してまいります。また、世界へ羽ばたく人材の育成を目指す母校・浦高を支援してまいりたいと思います。」

私も春日部地区浦高会の事務局として、会員相互の親睦だけでなく、母校や同窓会のために何ができるかを考えなければ・・と改めて感じた夜でした。